

## 追悼のことば

本日ここに、令和4年度北栄町戦没者追悼式を挙げるにあたり、ご遺族の皆様をはじめ、ご来賓の皆様ご臨席のもと、町民を代表して戦没者814柱の諸英霊に対し、謹んで追悼の言葉を捧げます。

諸英霊は先の大戦をはじめ幾多の戦役において、凍てつく極寒の荒野で、あるいは灼熱の地で、祖国の平和と発展を願い、家族の安泰を願いつつ、戦闘の中で傷つき、倒れ、あるいは戦後に至るまで異郷の地に残され、帰らぬ人となったのであります。戦禍に散った方々の無念、また、時が経過しても癒されることのないご遺族の深い悲しみと追慕の情に想いをいたすとき、尽きることのない悲しみが胸にこみあげてまいります。

諸英霊の残されました数々のご遺訓ご教訓は、戦後の我が国の復興に大きく活かされ、今日の我が国の繁栄の礎となっているものと存じます。ここに謹んで哀悼の誠を捧げますとともに、深甚なる感謝の意を表するものでございます。

ご遺族の皆様には、最愛の肉親を国に捧げられ、終戦期の混沌とした世相のなかであらゆる苦難に耐え、一家を支え家業に精励され、祖国復興のため、弛まぬ努力を続けてまいられました。そのご心労をお察しするとき、万感胸に迫るものがございます。

私たちは改めて戦争のない平和な日本、自由な社会の重要性を再認識し、祖国のために尊い命を捧げられた諸英霊に対し、崇敬の誠を捧げるものであります。

しかし世界は、今もなお、ロシアによるウクライナ侵攻をはじめ、各地で戦闘やテロの脅威に脅かされ続けております。絶え間なく発生しているこれらの行為は大切な人命を奪い続け、人々に悲しみや憎しみを生み続けています。世界各地での紛争は、一向に収まる気配がなく世界平和への道のりは、いまだに遠いことを痛感せざるを得ません。

そして今、私たちは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による様々な困難に直面しております。この苦難を乗り越え、一日も早く平穏な日々を取り戻さなければなりません。

戦後77年が経過し、人口全体に占める戦後生まれが、8割を超えています。

戦争を知らない人が増えると共に、戦争を体験された方も少なくなり、遺族の方も高齢化して参りました。戦争の悲惨さ、恐怖を風化させる事なく、平和な日本を次の世代に継承していく事が我々の責務であります。

二度とあの悲惨な歴史を繰り返すことのないよう平和への誓いを新たにいたしますとともに、北栄町の限りない発展のため、町民の皆様と共に、より一層努力を重ねてまいりますことを、お誓い申し上げます。

終わりに臨み、諸英霊の安らかならんことと、ご遺族の今後のご平安とご健勝を心からお祈り申し上げ、追悼の言葉といたします。

令和4年9月29日  
北栄町長 手嶋俊樹